

がんばる農家プラン事業

～規模拡大による経営発展プラン～

作成年月 平成 26 年 9 月

作成者 内田敦郎

規模拡大による経営発展プラン

作成者 内田敦郎

事業主体 内田敦郎

1. はじめに（プラン作成に至った経緯）

平成 19 年より認定農業者となり、農作業受託を中心に地域の信頼を得ながら規模を着実に伸ばして現在は水稻 16ha まで規模拡大してきました。

農作業を受けるにあたり、予想以上の高齢化、後継者不足により、拠点である地区以外の広範囲に及ぶ農作業受託を行っていましたが、徐々に小作依頼が増え現在に至りますが、米価が下げ止まらない中で、今後もその動きはより加速をしようです。

そんな中、日南町でも仕事をして儲けることができる手段があることを実証するため、今後も更に規模を拡大して売上げを伸ばし、地域雇用などを進めながら経営発展をしていきたいと考えています。

2. 経営の現状分析

(1) 経営者の経験・実績

私はまだ 代と若く、個人経営で規模拡大を進めてきた実績があります。また、作業受託部門（農業・林業）の拡大により平成 23 年に株式会社 を設立し地域雇用を行いながら、農林業の作業受託事業を行っています。将来的には個人経営も会社へ委譲し一本化することも考えています。

○過去の補助事業実績

平成 21 年度チャレンジプラン支援事業を活用し、現時点で目標達成済み。

目標達成率 水稻栽培面積 100% (H25 年（最終年）時点)

○認定農業者

平成 24 年度 日南町経営改善計画 認定

(2) 経営環境 (H25 年度)

《経営規模》

自作地	借入地	合計
105 a	1,845 a	1,950 a

《作目》

水稻	そば
1,600 a	350 a

《年間作業スケジュール (農業部門)》

品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水稻	播種・育苗 防除 刈取り 耕耘・ 代かき 運搬 田植え											
ソバ	鶏糞散布・ 額縁明渠 播種 収穫											

《施設・農業機械所有状況 (平成 26 年 4 月現在)》

機械・施設名	台数	能力・年式等	導入 年度	備考
トラクター	2 台	36ps 40ps	H17 H21	H21 チャレンジプラン事業
ドライブハロー	1 台	300cm	H21	H21 チャレンジプラン事業
コンバイン	2 台	4 条 4 条	H19 H22	
乗用田植機	2 台	8 条 6 条	H25 H19	
積載車	1 台	2t	H18	
ダンプトラック	2 台		H22 H25	
動力噴霧器	1 台	8ps		
育苗ハウス	5 棟	20m×6m		
色彩選別機	1		H19	
作業場			H17	
栗の木		約3ha分	S50	

(3) 経営の課題・問題

① 規模拡大に伴う育苗施設の不足

これまで計画どおりに規模拡大が進み、既存の育苗施設で必要な育苗数が確保できなくなってきました。JA 育苗センターの苗を購入することも検討したが、配達費も必要となりコストが高くなります（約 300 円増/苗箱 1 枚）。

（現状）必要育苗数 約 2,560 枚 （16 枚/10a×1,600a）

育苗数 約 2,500 枚 （500 枚/棟×5 棟）

※実際の必要箱数はほ場により異なるため、現状では必要数を育苗できている。

② 刈り取り能力の不足

規模拡大に伴い、コンバインの能力が不足することが予想され作業遅延のおそれがあります。目標年の水稻栽培面積に達する前にコンバインが更に 1 台必要となります。

（現状）コンバイン 4 条刈 1 台の刈取下限面積 8.2ha

③ ソバの湿害による生育不良

ソバを播種しているが、播種時期の悪天候などで生育不良な場合が多く、時期を逃して播種出来なかったほ場もあります。

3. プラン内容

(1) 取り組み方針

規模拡大において、H26 年度より始まった農地中間管理事業へ受け手として応募をしており、地区を中心に農地の集約を行います。実際に、高齢化や米価下落により農業をリタイアする声が聞かれ、規模拡大の見込みはあります。

今後は、地域住民との話し合いを進めて規模拡大に繋げていきます。

①育苗スペースの確保

今回のプランで育苗ハウス（6m×30m）を 1 棟導入し、今後規模拡大に伴い不足する育苗スペースを確保します。今回育苗ハウスの導入により約 750 枚の育苗枚数を増やすことができます。目標年では現状より 9ha の水稻規模拡大を検討しているため、これまでどおりの育苗方法だと約 1,440 枚（16 枚/10a×900a）の育苗スペースが必要で約 690 枚分のスペースが不足します。これについては、疎植栽培（14 枚/10a）を一部行い必要育苗数を減らす、育苗時期を分散し育苗ハウスの利用回転数を上げるなどにより対応するため、目標面積分は全て自家育苗します。

<対応>

- i) 疎植栽培 5ha 分で約 100 枚分 (△2 枚/10a×5ha)
- ii) ハウス回転数 1 棟分のハウスを 2 回転させる 約 600 枚分

ハウス	4月	5月	6月
1 新規	←————→	←-----→	
2 既存	←————→	→	
3 既存	←————→	————→	
4 既存	←————→	————→	
5 既存	←————→	————→	
6 既存		←————→	————→

ハウス内育苗期間： ←————→ 露地育苗期間： ←-----→

②ソバの栽培面積を減らし、水稻の作付拡大をします。

(2) 目標設定 (生産・販売計画等)

(目標)

項目	現状 (H25)	1年目 (H26)	2年目 (H27)	3年目 (H28)	目標 (H29)
水稻栽培面積(a)	1,600	1,700	2,000	2,200	2,500

(3) 実施計画

《機械・作物の年次別計画》

項目	内容	H26	H27	H28	H29
育苗ハウスの導入	水稻育苗のハウスを設置	◎			
コンバイン4条の導入	作付面積増大による導入			◎	
地域住民との交流	集積に向けての話合い	○	○	○	○

※◎は県、町の支援が必要なもの、○は事業主が実施

《支援事業の内容》

年度	H26	H27	H28	H29
機械・施設導入計画	水稻育苗ハウスの導入 (1,331千円)	—	4条刈りコンバインの導入 (10,000千円)	—
対象作物の生産計画	水稻 1,700a ソバ 300a	水稻 2,000a ソバ 300a	水稻 2,200a ソバ 300a	水稻 2,500a ソバ 300a

(4) 期待できる地域への効果

- ・規模拡大を進めることで、地域の農地荒廃を防ぐことができる。
- ・水稻の育苗ハウスを増設することで、種苗費のコスト削減ができる。

4. 添付資料

- 資料1：経営試算表
- 資料2：ほ場図
- 資料3：見取図、見積書